新型コロナウィルス（COVID-19）感染拡大による影響・支援ニーズ把握に向けたアンケート（事業所用）レポート０１

コミュニティワーク研究実践センター

調査概要

- NPO法人コミュニティワーク研究実践センターでは、Readyforによる「新型コロナウィルス感染症：拡大防止活動基金」の助成を受け、後志、石狩、空知エリアの「相談支援団体」における新型コロナウィルス感染拡大による影響、各団体のニーズを把握するとともに、支援物資の送付、フードバンクとの連携を後方支援として行うこととなりました。このプロジェクトの第1段階として、生活困窮者や障害者支援、子ども支援などに関わる福祉団体、相談支援団体および、その関連事業者を対象にアンケート調査を実施しました。
- 調査目的：
  - 新型コロナウィルス（COVID-19）感染拡大による影響実態の把握
  - 助成金をもとにした支援物資の配布希望の把握
  - その他、支援ニーズ調査
- 調査対象：後志、石狩、空知エリア＋苫小牧市の　相談支援事業所等（事業所単位）
  エリア内の生活困窮者支援に関連する団体および、各団体と連携している企業・事業所へ依頼を行った。
- 調査方法：WEBアンケート方式
- 調査期間：2020年5月15日（金）から5月22日（金）　※延長して５月末まで受け付けた。
- 回答：110団体から回答を得た。（64団体が札幌市内、35団体が市部、11団体が町村部）

回答事業所の属性

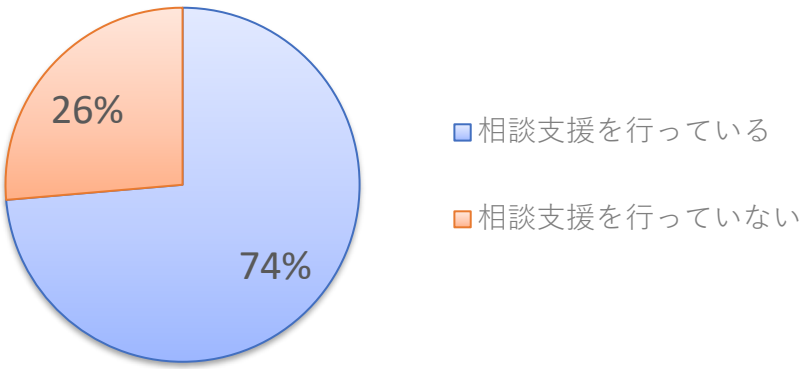
障害者総合支援法に基づく事業所が26.4％、生活困窮者自立支援に関わる事業所、18.2％

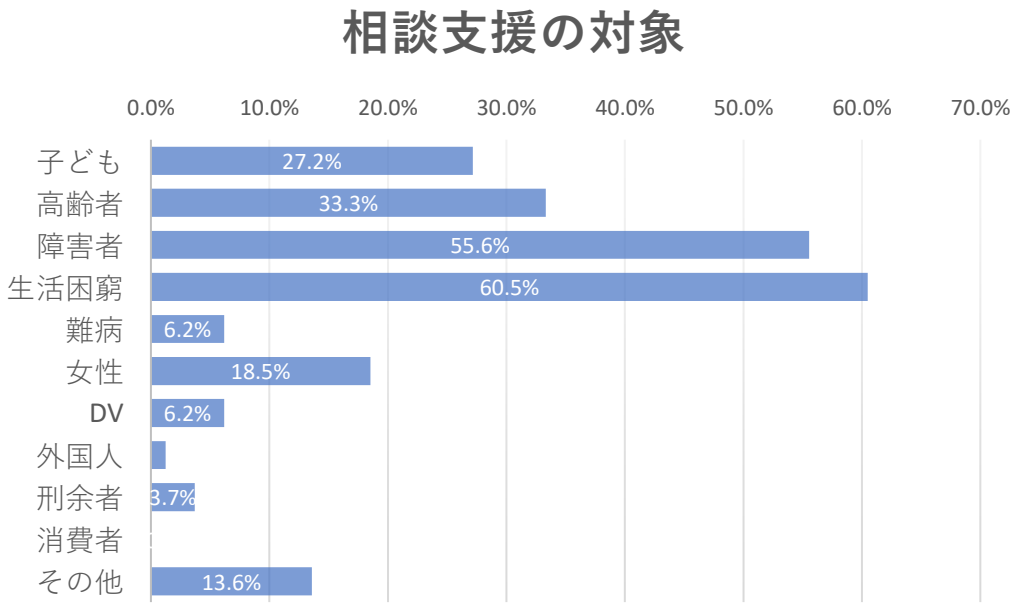
放課後デイや子育てサロンなどが14.5％、生活福祉資金の貸付を行う社協が12.7％となっているほか、フードバンクやまちづくり市民活動団体、居住支援団体からも回答が得られた。

	度数	パーセント
生活困窮者自立支援法に基づく事業（生活困窮者自立支援法等）	20	18.2
児童福祉法に基づく事業（放課後デイサービス、子育てサロン、保育所、児童養護施設等	16	14.5
老人福祉法、介護保険法に基づく事業（老人ホーム、地域包括、介護事業所等）	3	2.7
障害者総合支援法に基づく事業（A型、B型、就労移行支援、中ポツ等）	29	26.4
売春防止法に基づく事業（婦人保護施設等）	1	0.9
授産施設及び生計困難者に無利子又は低利で資金を融通する事業（生活福祉資金貸付）	14	12.7
その他福祉事業	4	3.6
コミュニティカフェ、子ども食堂、フードバク等	7	6.4
まちづくり、市民活動等	7	6.4
医療機関	1	0.9
不動産・居住支援法人	5	4.5
その他	3	2.7
合計	110	100.0

相談支援について

- 相談支援を実施してる事業所は73.6％（81団体）である。
- 対象は、生活困窮（60.5％）、障害（55.6％）、高齢（33.3％）、子ども（27.2％）となっている。ほかに女性支援、難病支援、DV支援、刑余者支援などが含まれている。





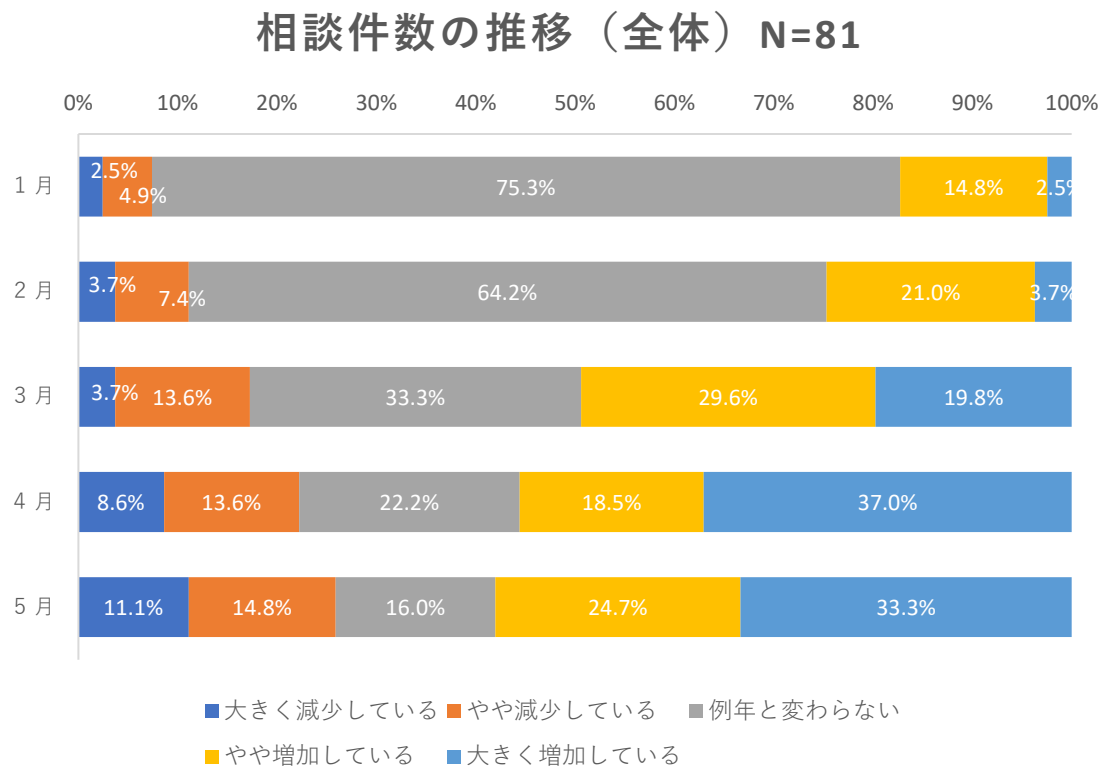
回答事業所の属性　事業所種別

- 生活困窮では、高齢者、障害者、女性、DV、刑余者など幅広い対象。となるようにそれぞれの団体でも広く対象者が訪れていることがわかる。

			相談支援の対象者は次のうちどれですか、主たるものを３つまで											
			子ども	高齢者	障害者	生活困窮	難病	女性	DV	外国人	刑余者	消費者	その他	合計
貴事業所の種類を次の中からひとつ選んでください	生活困窮者自立支援法に基づく事業（生活困窮者自立支援法等）	度数	0	6	8	20	0	2	2	0	1	0	2	20
		行の応答 % (基準: 度数)	0.0%	30.0%	40.0%	100.0%	0.0%	10.0%	10.0%	0.0%	5.0%	0.0%	10.0%	205.0%
	児童福祉法に基づく事業（放課後デイサービス、子育てサロン、保育所、児童養護施設等	度数	11	0	0	0	0	6	0	0	0	0	3	11
		行の応答 % (基準: 度数)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	54.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	27.3%	181.8%
	生活保護法に基づく事業（救護施設、更生施設等）	度数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		行の応答 % (基準: 度数)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	老人福祉法、介護保険法に基づく事業（老人ホーム、地域包括、介護事業所等）	度数	0	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	2
		行の応答 % (基準: 度数)	0.0%	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	300.0%
	障害者総合支援法に基づく事業（A型、B型、就労移行支援、中ボツ等）	度数	5	2	17	3	4	1	0	0	1	0	0	17
		行の応答 % (基準: 度数)	29.4%	11.8%	100.0%	17.6%	23.5%	5.9%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	194.1%
	売春防止法に基づく事業（婦人保護施設等）	度数	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		行の応答 % (基準: 度数)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	300.0%
	授産施設及び生計困難者に無利子又は低利で資5金を融通する事業（生活福祉資金貸付）	度数	0	11	10	12	0	1	0	0	0	0	1	13
		行の応答 % (基準: 度数)	0.0%	84.6%	76.9%	92.3%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	269.2%
	その他福祉事業	度数	1	0	1	3	0	1	0	0	0	0	2	4
		行の応答 % (基準: 度数)	25.0%	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	200.0%
	コミュニティカフェ、子ども食堂等	度数	2	1	2	2	0	0	0	1	0	0	1	3
		行の応答 % (基準: 度数)	66.7%	33.3%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	300.0%
	まちづくり、市民活動等	度数	2	0	0	3	0	3	2	0	0	0	1	4
		行の応答 % (基準: 度数)	50.0%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%	75.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	275.0%
	医療機関	度数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		行の応答 % (基準: 度数)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	200.0%
	不動産・居住支援法人	度数	0	5	4	5	0	0	0	0	1	0	0	5
		行の応答 % (基準: 度数)	0.0%	100.0%	80.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	300.0%
	その他	度数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		行の応答 % (基準: 度数)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	合計	度数	22	27	45	49	5	15	5	1	3	0	11	81
		行の応答 % (基準: 度数)	27.2%	33.3%	55.6%	60.5%	6.2%	18.5%	6.2%	1.2%	3.7%	0.0%	13.6%	225.9%

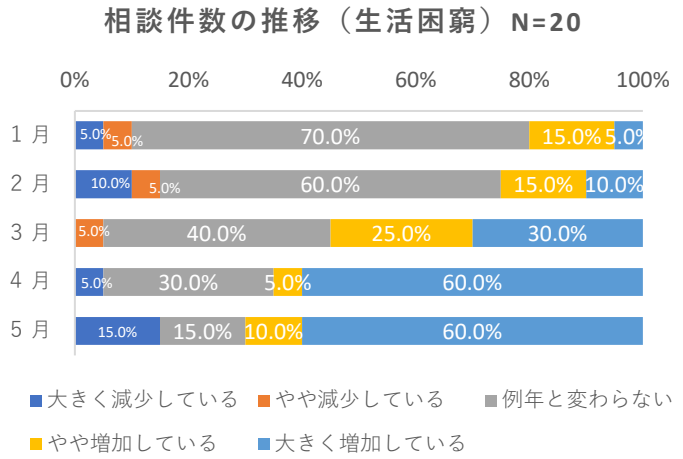
相談件数の推移

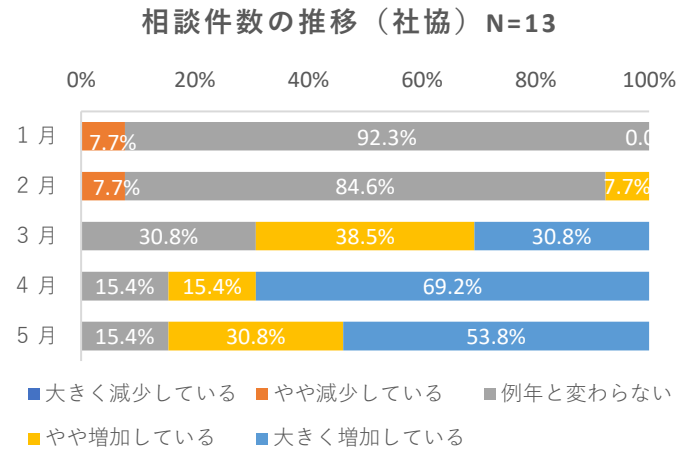
- 大きく2月以降、相談者数が増加している事業所の割合が徐々に増え、3月では半数以上の事業所、4月、5月では6割以上の事業所において相談者が増えたと回答している。
- 一方で、相談者数が減少していると回答した事業所も同様に増加しているが、この多くは、対面支援が出来ないまたは敬遠することによって相談体制が組めなかったところである。

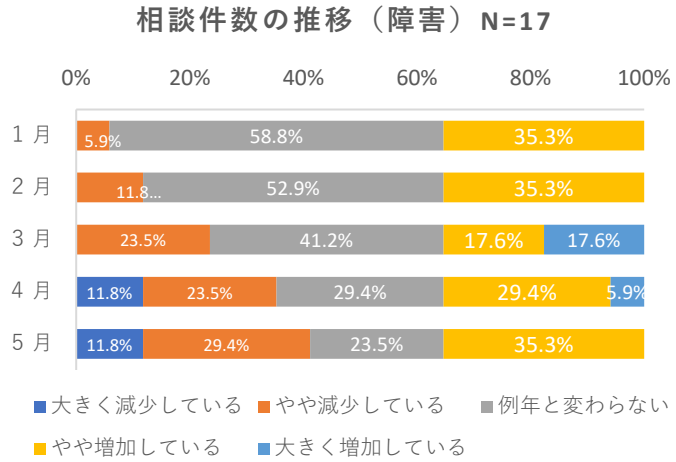


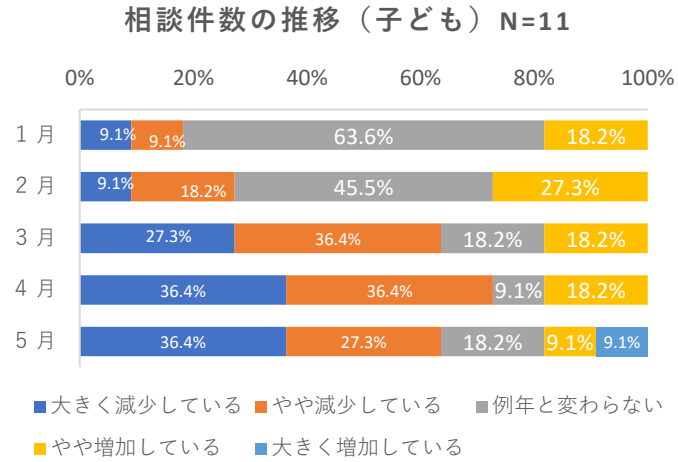
相談件数の推移（事業所別）

- 生活困窮、社協の相談件数は3月以降急増している。生活困窮では、一時生活を実施している団体で、5月以降相談件数の減少（前年同月比）が見られる。
- 子どもや障害系の団体は、相談が増えている事業所も多いが、対応件数を意図的に減らしている団体が多くなっている。



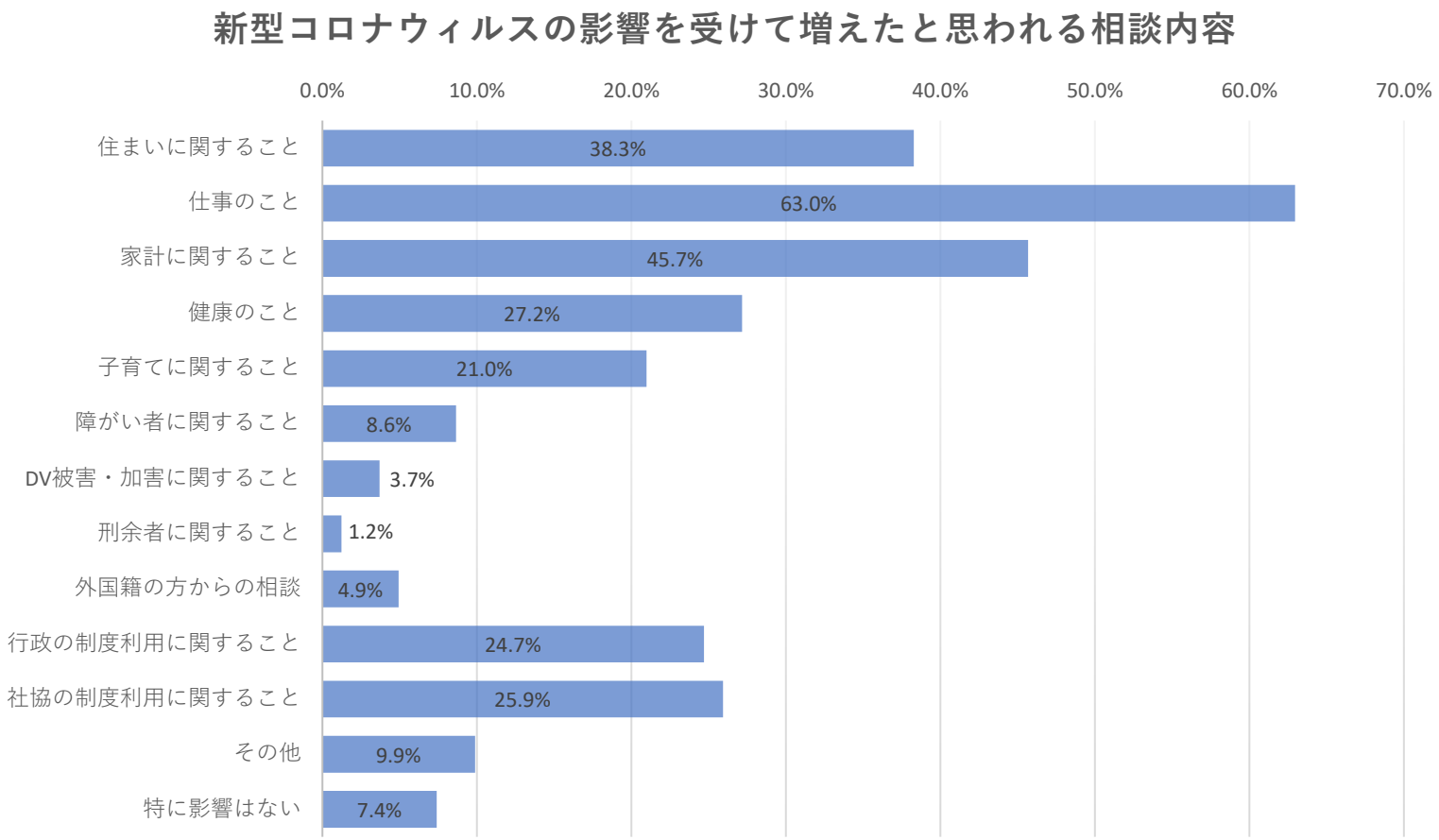




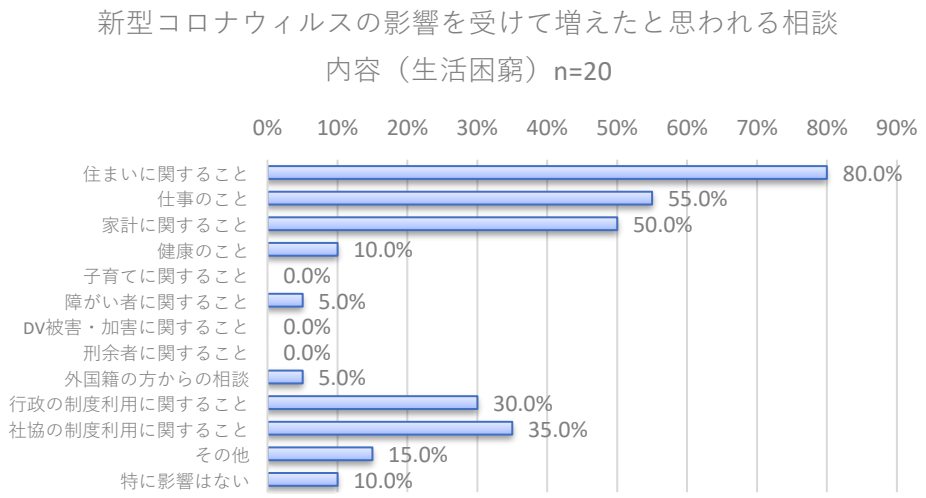


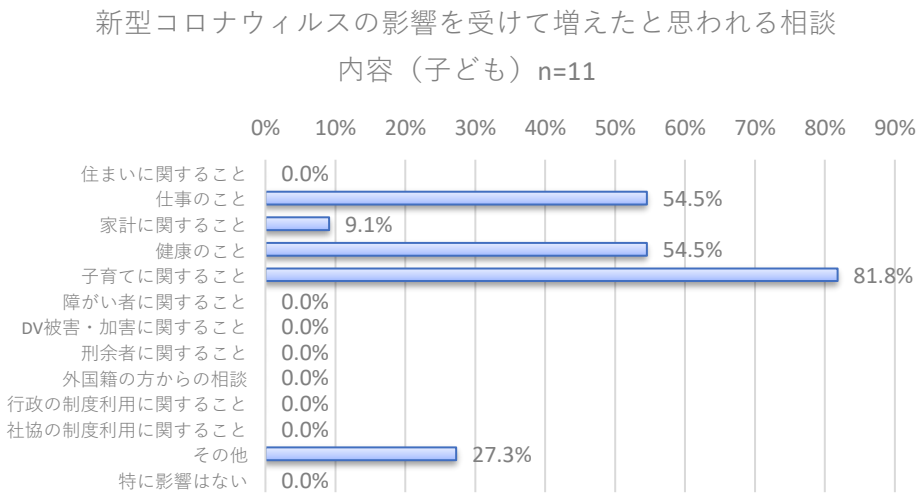
相談内容の変化

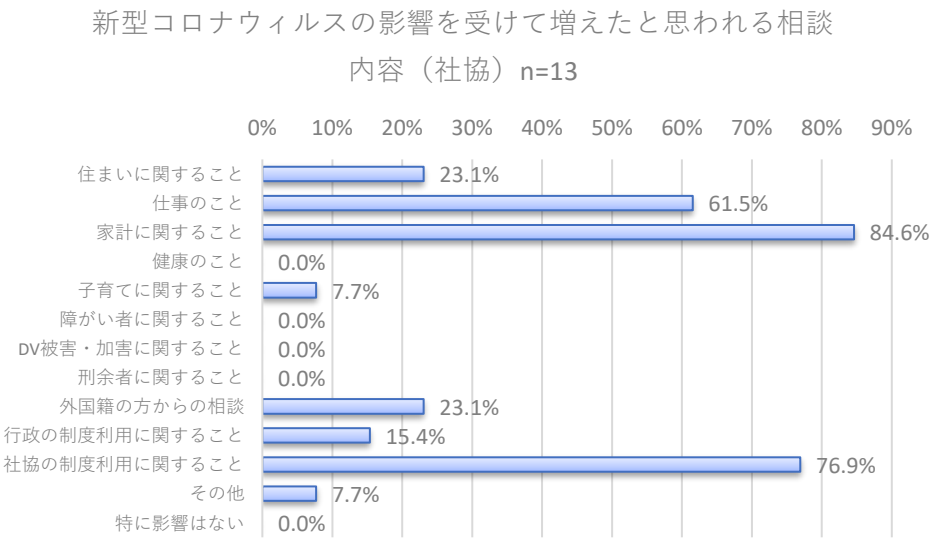
- 仕事に関することが最も置く、家計に関すること、住まいに関することの説明が多い。

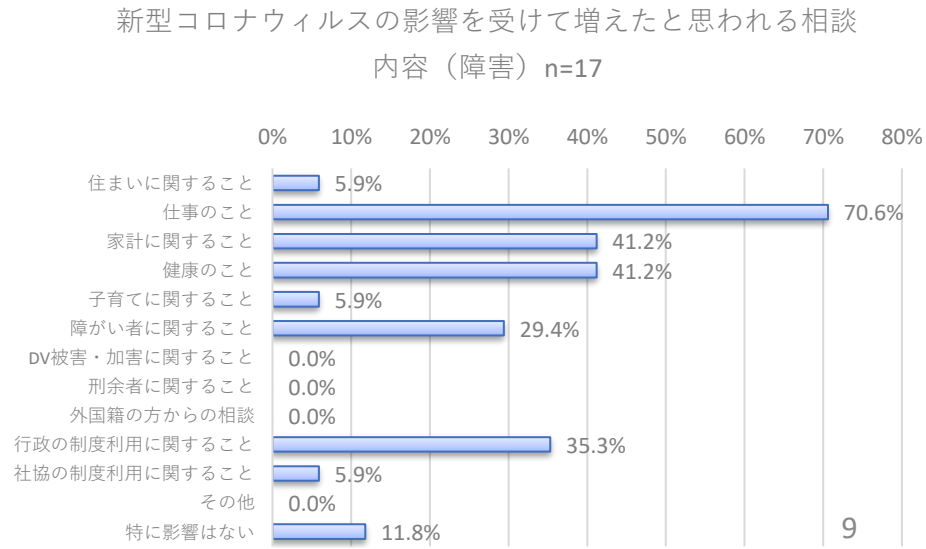


相談内容の変化（事業所別）









相談内容の変化（事業所別）

- 生活困窮では、住まいに関することが最も多く、仕事のこと、家計のことの相談も多い
- 社会福祉協議会では、家計に関することが多く、社協制度利用、仕事のことの相談が多い

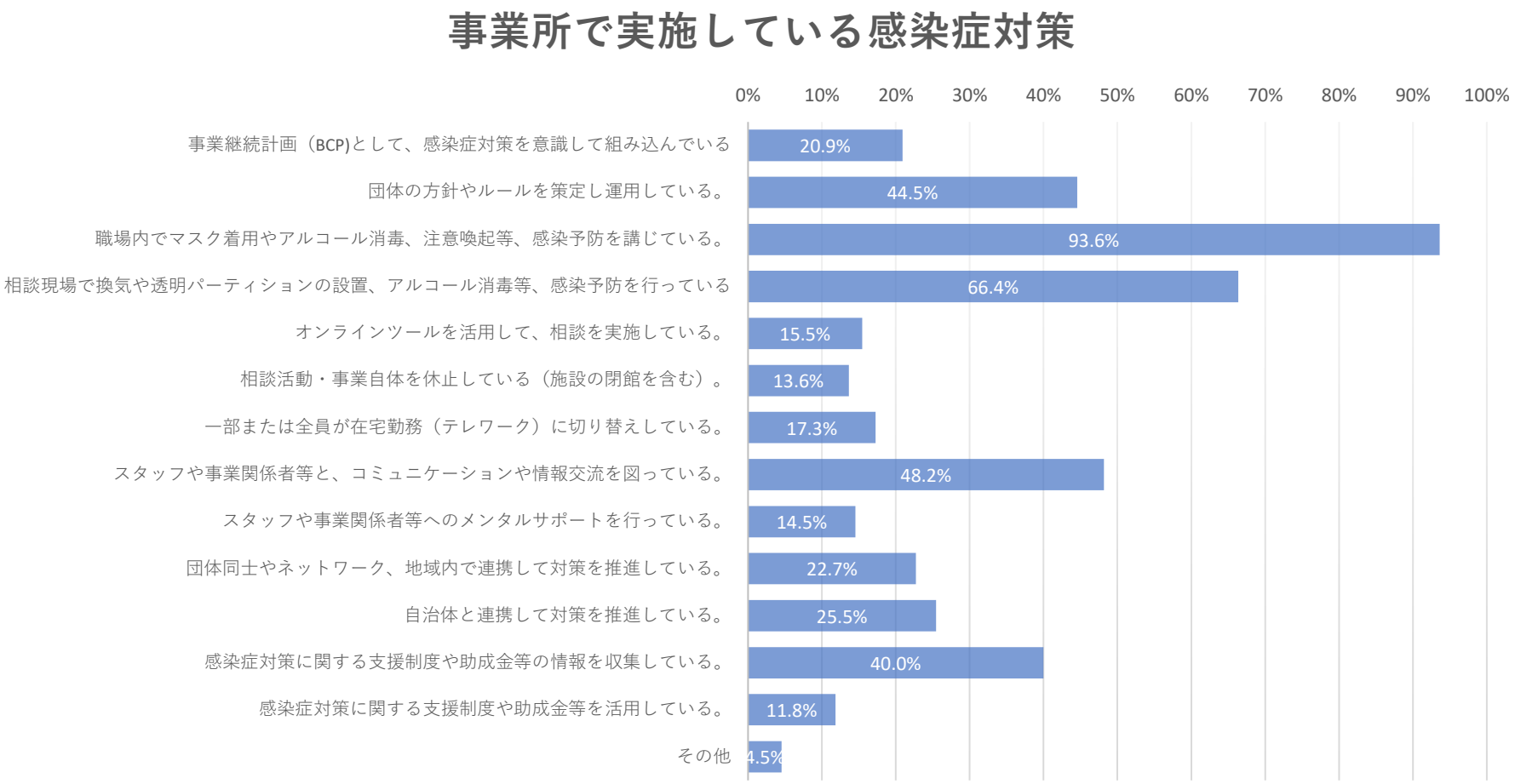
新型コロナウィルスの影響を受けて増えたと思われる相談内容についてチェックしてください

			住まいに関すること	仕事のこと	家計に関すること	健康のこと	子育てに関すること	障がい者に関すること	DV被害・加害に関すること	刑余者に関すること	外国籍の方からの相談	行政の制度利用に関すること	社協の制度利用に関すること	その他	特に影響はない	合計
貴事業所の種類を次の中からひとつ選んでください	生活困窮者自立支援法に基づく事業（生活困窮者自立支援法等）	度数	16	11	10	2	0	1	0	0	1	6	7	3	2	20
		行のＮ％	80.0%	55.0%	50.0%	10.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	5.0%	30.0%	35.0%	15.0%	10.0%	100.0%
	児童福祉法に基づく事業（放課後デイサービス、子育てサロン、保育所、児童養護施設等	度数	0	6	1	6	9	0	0	0	0	0	0	3	0	11
		行のＮ％	0.0%	54.5%	9.1%	54.5%	81.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	27.3%	0.0%	100.0%
	生活保護法に基づく事業（救護施設、更生施設等）	度数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		行のＮ％	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	老人福祉法、介護保険法に基づく事業（老人ホーム、地域包括、介護事業所等）	度数	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	2
		行のＮ％	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
	障害者総合支援法に基づく事業（A型、B型、就労移行支援、中ボツ等）	度数	1	12	7	7	1	5	0	0	0	6	1	0	2	17
		行のＮ％	5.9%	70.6%	41.2%	41.2%	5.9%	29.4%	0.0%	0.0%	0.0%	35.3%	5.9%	0.0%	11.8%	100.0%
	売春防止法に基づく事業（婦人保護施設等）	度数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1
		行のＮ％	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	授産施設及び生計困難者に無利子又は低利で資5金を融通する事業（生活福祉資金貸付）	度数	3	8	11	0	1	0	0	0	3	2	10	1	0	13
		行のＮ％	23.1%	61.5%	84.6%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	23.1%	15.4%	76.9%	7.7%	0.0%	100.0%
	その他福祉事業	度数	2	3	3	3	1	0	0	0	0	1	0	0	0	4
		行のＮ％	50.0%	75.0%	75.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	コミュニティカフェ、子ども食堂等	度数	2	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		行のＮ％	66.7%	66.7%	66.7%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	まちづくり、市民活動等	度数	2	3	3	1	2	1	2	0	0	3	1	0	1	4
		行のＮ％	50.0%	75.0%	75.0%	25.0%	50.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	25.0%	100.0%
	医療機関	度数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		行のＮ％	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	不動産・居住支援法人	度数	5	5	0	2	0	0	0	0	0	1	2	1	0	5
		行のＮ％	100.0%	100.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	100.0%
	その他	度数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		行のＮ％	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	合計	度数	31	51	37	22	17	7	3	1	4	20	21	8	6	81
		行のＮ％	38.3%	63.0%	45.7%	27.2%	21.0%	8.6%	3.7%	1.2%	4.9%	24.7%	25.9%	9.9%	7.4%	100.0%

相談内容の変化

- 初めての相談が99％をしめている。
- 夜間従事関係者、スナック従業員、経営者、フリーランスからの相談が増えた
- 遠方（旭川、函館など）からの問い合わせ
- これまでは低所得世帯から生活費困窮に係る相談が多かったが、低所得世帯に該当しない世帯からの借入れ相談が増加している（生活福祉資金の特例貸付において対象要件を緩和されたことが大きな要因と思われる）
- 相談が疎遠となっていた方からの問い合わせあり
- 普段の相談にはほとんど例が無い、現役自営、フリーランスで収入を得ている者が休業状態で収入を確保出来ない。この場合、貸付は既に利用し たが、それも消費してしまったケースや、制度に該当せず、生活が維持できないもの、も多い。 中には、普段も経営がひっ迫している者と、普段なら困窮状態とは、判断しない者もが混在している中で どちらも生活を維持する手段を失い自力で解決する術がなくなっている。一時生活支援事業自体は該当 しないものも多いが、何処までを相談支援の対象と考えるかは、判断が難しい状態。
- 倶知安町・ニセコ町内のホテルや飲食店で従事している方（していた方）が増えている。
- この10年ほどで倶知安町は世界的なリゾート地として急速に発展し、外国資本が多く入ってきている特有の地域である。働く方も町外から移住してきた方、海外から来られる方、短期間しかいない方等非常に複雑である。
- 女性だけでなく、父親の相談も増えている。(在宅ワークの増加？)
- 給付や貸付のみを求めている人が増えた

感染症対策


事業所で実施している感染症対策
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
事業継続計画（BCP)として、感染症対策を意識して組み込んでいる
20.9%
団体の方針やルールを策定し運用している。
44.5%
職場内でマスク着用やアルコール消毒、注意喚起等、感染予防を講じている。
93.6%
相談現場で換気や透明パーティションの設置、アルコール消毒等、感染予防を行っている
66.4%
オンラインツールを活用して、相談を実施している。
15.5%
相談活動・事業自体を休止している（施設の閉館を含む）。
13.6%
一部または全員が在宅勤務（テレワーク）に切り替えしている。
17.3%
スタッフや事業関係者等と、コミュニケーションや情報交流を図っている。
48.2%
スタッフや事業関係者等へのメンタルサポートを行っている。
14.5%
団体同士やネットワーク、地域内で連携して対策を推進している。
22.7%
自治体と連携して対策を推進している。
25.5%
感染症対策に関する支援制度や助成金等の情報を収集している。
40.0%
感染症対策に関する支援制度や助成金等を活用している。
11.8%
その他
4.5%

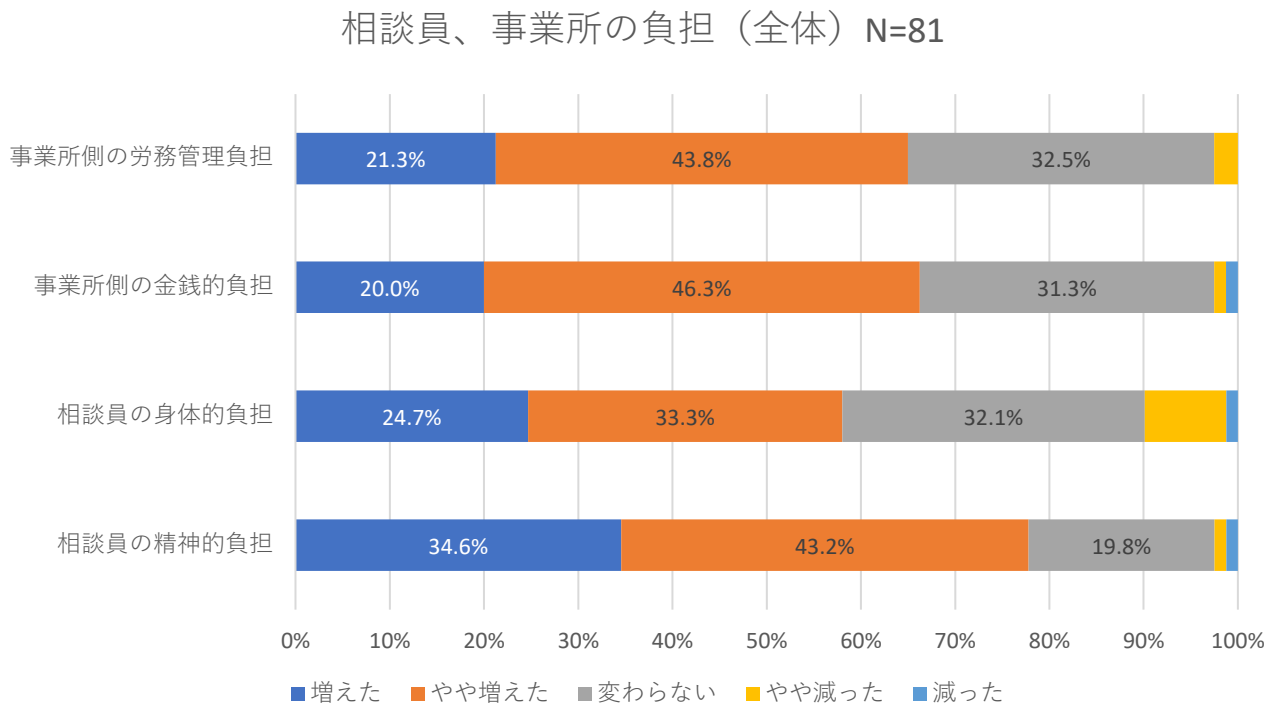
感染症対策

- 7割以上の事業所は、2020年にはいってから感染症対策を開始していて、その多くは2月以降となっている。
- 新型インフルエンザ以前から行わていた事業所は15.5％のみ。
- 昨年度までだと21.9％である。

	度数	パーセント
新型インフルエンザ以前	17	15.5
新型インフルエンザ以降2019年12月まで	7	6.4
2019年12月から	2	1.8
2020年1月から	12	10.9
2020年2月から	42	38.2
2020年3月から	23	20.9
2020年4月から	4	3.6
その他	3	2.7
合計	110	100.0

相談員、事業所の負担

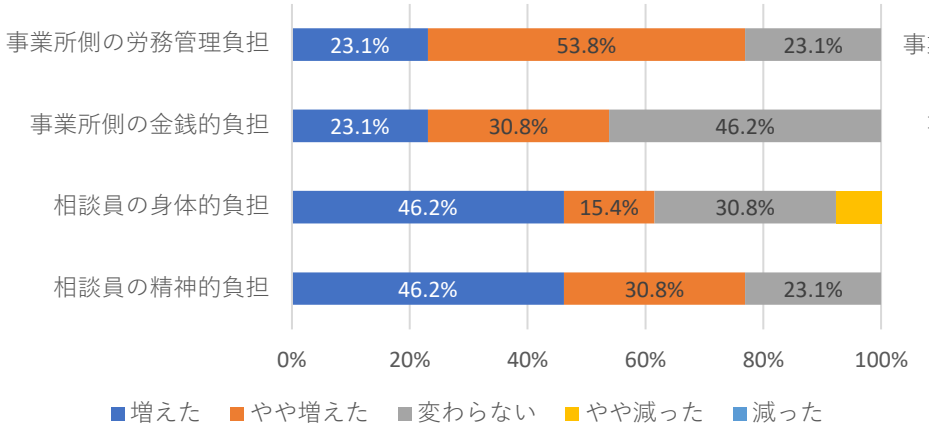
- 約6割以上の事業所で、負担が増えたと回答している。
- 特に相談員の精神的負担が大きい。



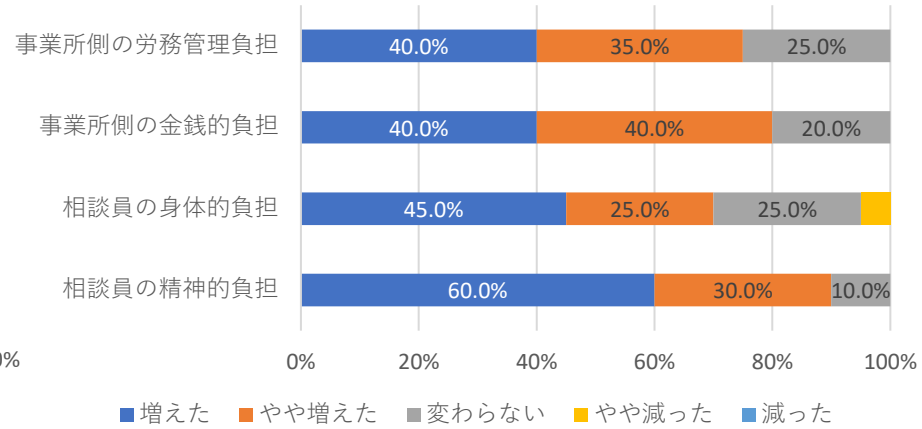
相談員、事業所の負担（事業所別）

- 社協、生活困窮ともに負担はふえているが、生活困窮のほうが負担が大きくなっている。

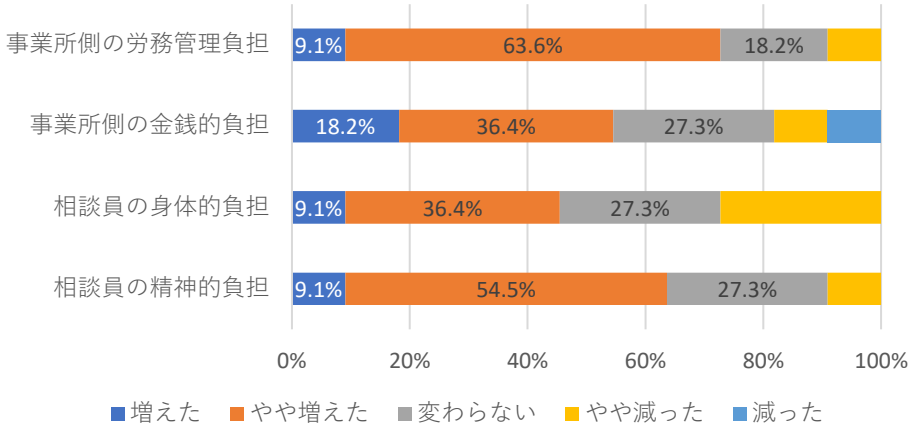
相談員、事業所の負担（社協）n=13



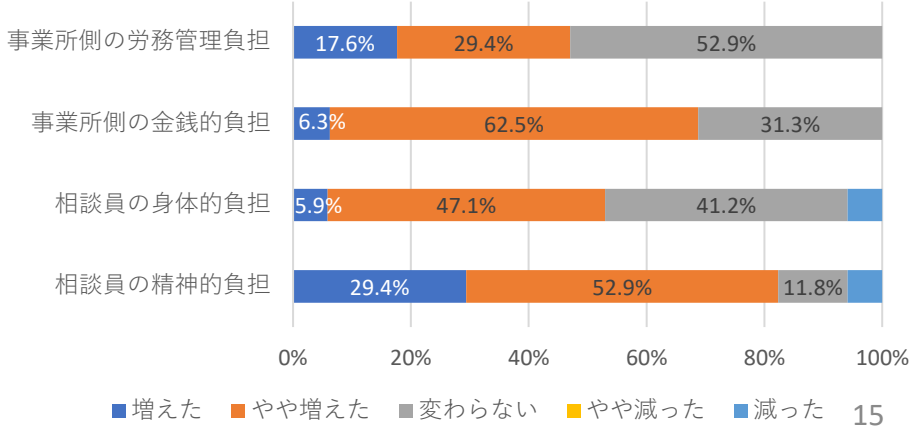
相談員、事業所の負担（生活困窮）n=20



相談員、事業所の負担（子ども）n=11



相談員、事業所の負担（障害）n=17



相談支援の現場において、相談体制の課題、困っていること

- テレワークを導入したため、人手不足になったり、情報共有が難しい。
- 求人（障害者求人・一般求人とも）の減少がみられ、求職活動支援が難航することが予測されること ・今後は休業補償や失業等の相談増加が予測されること ・集中的な職場定着支援が必要であるが、職場（介護現場等）が感染拡大予防のため支援者の来訪不可とされ対応できない
- 住居確保給付金の相談増により、相談員の仕事量が大幅に増えている。 ・新型コロナウィルスの影響で面談等を控えていることもあるが、今まで行っていた寄り添い支援（例えばひきこもりの人などの定期面談や居場所の運営など）については十分に時間が取れず、現時点では住居確保給付金の対応を優先させている。
- 3月25日より緊急小口資金（特例）の相談、申し込みが増加。申請書類は簡略化され、申込者の申請手続きの負担は減っているが、倶知安社協ではお金の貸付申込を受けて終わり、ということはしていない。生活に困窮しているほかの福祉的な悩みが何かあるか、といったところまでをお聞きしているため、面談はどうしても長い時間になっている。このため、ある程度3密になっても仕方ないという部分も現実にはある。
- 家族全員の大人数で相談に来られるのが、今一番困ること。
- 隔離しての相談、利用者さんとの家族との面会ができる場所がない
- 活動拠点の公共施設が閉館になり、スタッフが集まれない。相談を受けるスタッフを育成しようとしていたところだったので、間に合わず、相談が激増して、1人で対応する事に限界がある。
- 相談員が子供を預けられなくて出社出来ず人員がたりなくなっている
- 本来、緊急事態宣言に際し、施設を休みにしたいが、施設の性質上暮らしの維持継続に主を置いているため休むことができずに開所している。また、日常生活支援を行っているため、病院や生活用品の購入に職員が同行し危機を感じる。

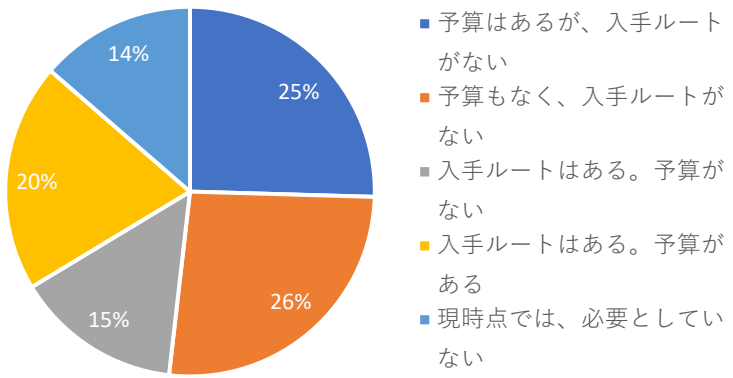
事業内容の変化

- 新型コロナウイルスの影響による生活困窮者等に対して、制度を周知出来るようにポスターやチラシを作成し公的機関に掲示、配布を行った。
- 困窮世帯からの要請が増えて、忙しくなった。
- サロン等の事業ができない。 ・年度末、年度初めの会議の開催ができない。
- WEB等を活用しての面談体制づくりを準備中
- ４月、５月については、ほぼ貸付と住居確保給付金に関する相談となった。
- 4月からこども食堂の料理の提供を、弁当に変換して実施。
- オンライン（ZOOM）での活動（ピアサポートグループの開催）を開始した。 オンライン上のグループで自由に書き込みのできるスペースを作った。 郵送による食糧支援を始めた。 対面での集まりができず、オンライン環境にない利用者への支援ができなかった。 託児による子どものケア、養育者の息抜きサポートができなかった。
- 利用者が行う内職作業が減ったため授産収入が激減している。
- こども食堂は現在中止している。 弁当配布、食材配布に切り替え活動しているが、こども達との会話を最小限にとどめている為、相談までには、至らない。 今月から、こども達の声を聞く為、 アンケートと切手付き封筒を配布弁当に同封する予定。
- 利用者に関わる活動の自粛、企業開拓・訪問が出来ない、地域での取り組みが出来ない
- パートが休むので　仕事が進まない。
- 委託事業は対面相談の自粛を求められた他、出張相談、研修事業等の業務の制約も発生した
- ひろばは開催できず、絵本の貸出や見ることもできない。集団保育は３密になる為休止状態のため、運営が厳しい。

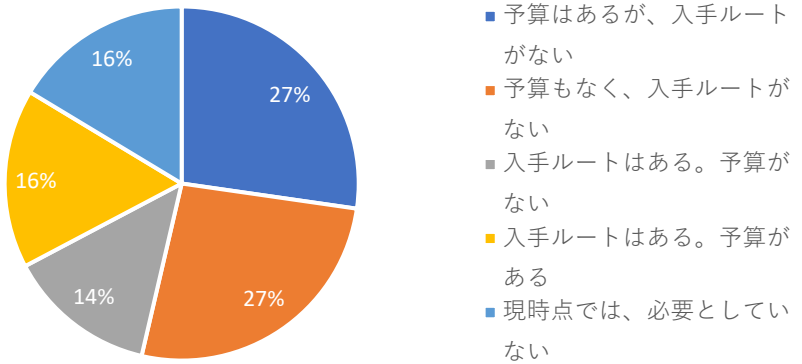
物資の入手状況

- マスク、消毒液ともに、団体によって状況が大きくことなる。
- 入手ルートがない団体が、約50％、入手ルートがあっても予算がない団体は約15％と、65％の団体が入手できない状況となっている。

マスクの入手状況（5月12日時点）

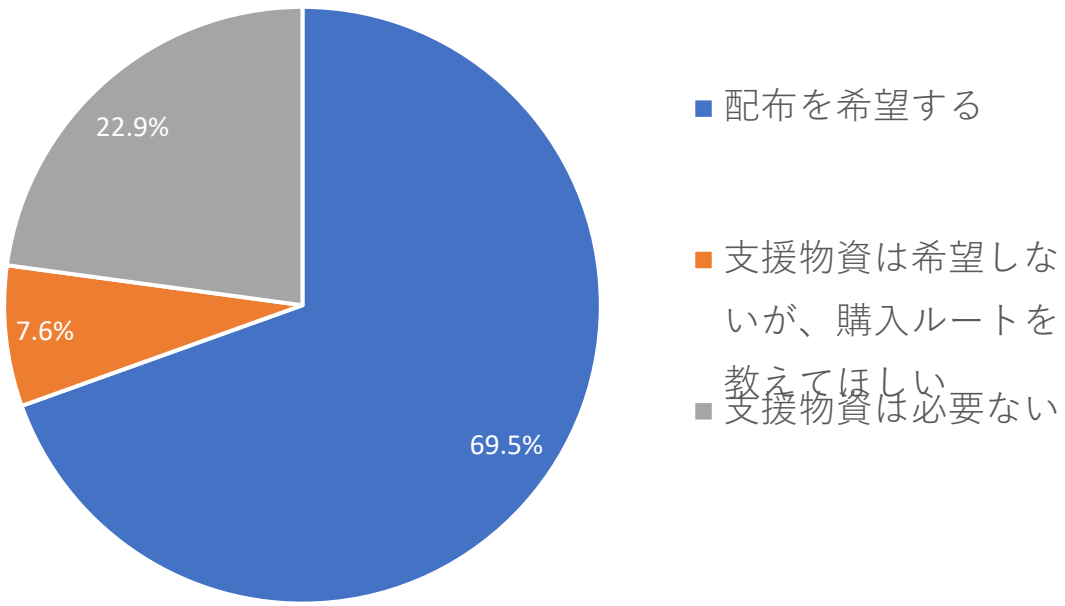


消毒液入手状況（5月12日時点）

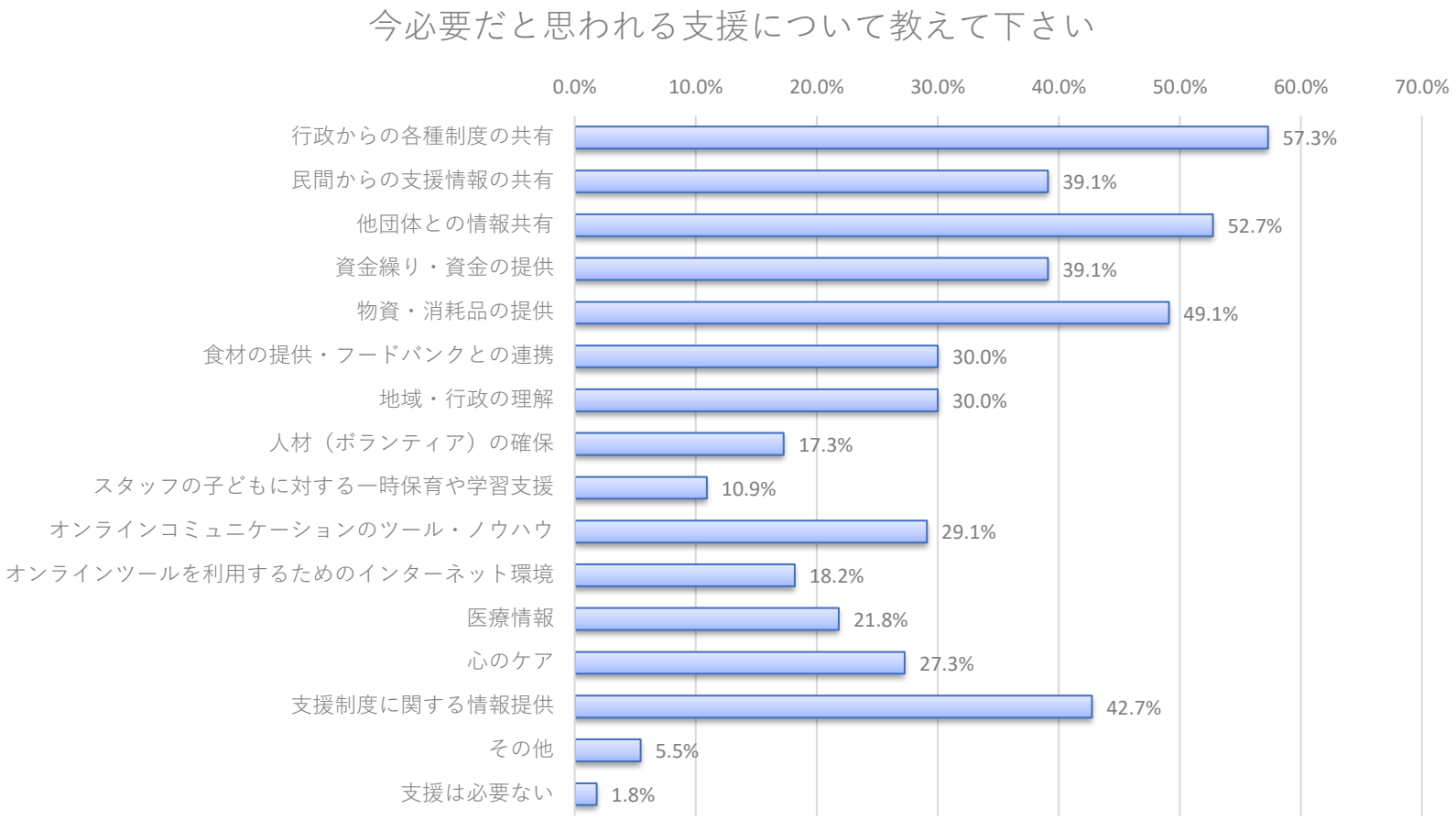


その他、必要な物資としては、空気清浄機 ・ポリ手袋 ・アルコールティッシュ、ハンドソープ、非接触体温計、アクリル板、透明パテーションのクリアフィルムなど

支援物資の配布希望


支援物資の配布希望
22.9%
7.6%
69.5%
配布を希望する
支援物資は希望しないが、購入ルートを教えてほしい
支援物資は必要ない

必要だと思われる支援

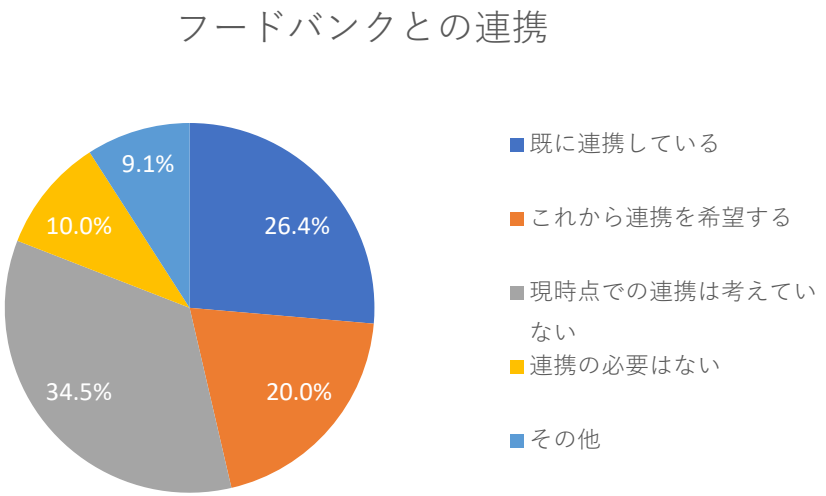

今必要だと思われる支援について教えて下さい
0.0%
10.0%
20.0%
30.0%
40.0%
50.0%
60.0%
70.0%
行政からの各種制度の共有 57.3%
民間からの支援情報の共有 39.1%
他団体との情報共有 52.7%
資金繰り・資金の提供 39.1%
物資・消耗品の提供 49.1%
食材の提供・フードバンクとの連携 30.0%
地域・行政の理解 30.0%
人材（ボランティア）の確保 17.3%
スタッフの子どもに対する一時保育や学習支援 10.9%
オンラインコミュニケーションのツール・ノウハウ 29.1%
オンラインツールを利用するためのインターネット環境 18.2%
医療情報 21.8%
心のケア 27.3%
支援制度に関する情報提供 42.7%
その他 5.5%
支援は必要ない 1.8%

その他、必要な支援

- SNSや報道機関の間違った知識ではなく、専門家のしっかりとした情報を取り入れて共有していく事。コロナウィルスと共存していくにはどうしたら良いかという正しい知識を身につける事。
- その他のところと連携をするなどの余裕は何もない。 まずは目の前のことをこなす事しか余裕がない。 あまり考えられない。 オンラインの相談など、これ以上の相談を受けられる仕組みは作れない。対応しきれないため検討したくても考えられない。
- フードバンク等の食糧だけでなく、おむつや衛生用品等の支援
- 事業所内で罹患者が出た場合、営業停止を余儀なくされる。収益が下がるだけではなく、消毒費用や風評被害による復活の難しさ、が挙げられる。罹患者が出た場合の具体的な救済処置を設けてほしい。
- 医療福祉の現場で働くスタッフへ家庭への優先支援（家庭保育をお願いされて、職場を休まなければならない現実がある） 福祉サービスなので休業しないでほしいと言われているが、リスク回避のための経費負担に対する金銭的支援が欲しい。単に介護報酬だけでは、賄えきれない。 開業する事により、感染した場合の休業補償を万全にして頂かないと、腹を決めて開業を継続する事はこれ以上厳しい可能性が出てくる。　感染した場合の万全フォロー体制と地域の理解、風評被害対策、休業後の開業に向けた支援体制の確立が急務と考えます。　働いている人たちへのフォローというか温かさが必要ではないかと思います。
- 学校が把握している、困窮世帯の情報を共有したい。 必要であれば、支援を届けたい。
- 訓練生という立ち位置のB型利用者にとっては有給休暇、収入の保障などなく、感染予防に積極的な利用者程収入が減ってしまう。 また、事業の休止は、居場所、収入、生活リズム、情報あらゆるものを失うことに繋がる人も多いのが悩ましい。 生活・資金の保障が早期に行われれば多くの自粛はスムーズに進むと思います。
- 個人的にはコロナ対応を行ってくれた病院に多額な補助金を出すべきだと思っています。命を守っているのに経営が苦しいという話をよく聞きます。
- 今後長期化することにより様々な新たな課題が生じることが考えられるため柔軟な支援検討が必要である。
- 子どもの無料の遊び場。公園で遊んでいると年寄りに「何遊んでるんだ！」と言われた児童も。私ではありませんが、働きながら勉強している学生の働き口
- 配慮が必要な子育て家庭への訪問（虐待予防）、学校での子どもの対応、子どものショートステイ先、休園・休校時の保育料の助成
- 弁当や、食品を配布する拠点がないので、各区で協力してくれる、事業所や場所がほしい。

フードバンクとの連携

- 連携している事業所は26.4％、これから連携を希望するが20.0％、合計46.4％にフードバンクとの連携ニーズがある。
- その他の9.1％の多くはフードバンクについて理解していないとの回答が多くを占めた。



- 連携されているフードバンクは、次の通り７事業所である。

名称	回答事業所数
フードバンク札幌（福祉生活支援センター）	12
フードバンクイコロ札幌	10
ハンズハーベスト北海道	4
NPO法人ワーカーズコープ　フードバンクいぶり	3
もったいないわ千歳	3
NPO法人ワーカーズコープ　フードバンクとまこまい	1
日本もったいない食品センター	1

支援物資配布状況

- 事業所アンケートにおいて、必要数など調査し、支援物資を配布した。
- 配布用のアルコール対応容器などに費用がかかり必要数は配布ができていない。
- 非接触型体温計やパーテーションなどのニーズがある。
- 非常事態宣言が解除され、人の動きが復活するに当たり、必要なものも変化している。
- マスク希望数　　【310箱】
- アルコール希望数　　【229Ｌ】
- 【配布数　80箇所】
  - マスク配布数　268箱（サージカル・一般・子ども用）
  - アルコール配布数　175Ｌ
  - 非接触型体温計　21個
  - ハンドソープ　　１０Ｌ（２０個）＋業務用３個
  - ディスペンサー・非接触型ディスペンサー　81個　　・スプレーボトル　２８９本
- 連携事業
  - メーリングリスト参加　64事業所
  - Facebookグループへの参加　26事業所希望　未実施
- フードバンク　合計316世帯　917人に食糧支援が届いた。
  - 小包個人宅配送　277箱　２６３世帯　７７１人
  - パントリー（代理拠点配布）　３０世帯 86人
  - 相談支援機関紹介の小包個人宅配送　１９世帯　52人
  - 本人電話で直接問い合わせによ小包個人宅配送　4世帯8人

アンケート回答依頼の際に行った各生活困窮者支援現場のヒアリング内容①

生活困窮者相談支援事業

- アパートの少ない新興エリアなどでは住居確保給付金の相談・申し込みが少ないがその代わり貸付に相談・支援が集中した地域などあった。（5月時点貸付300件に対し住確1件など）
- 住居を失うケースは4-5月に一旦集中し、そのほとんどが労働住宅に住んでいた。
- 感染対策で受入人数も削減している中シェルター等で感染が発生した場合の対策・代替え手段はどうするのかなどの議論があった。
- 直営の相談支援事業所は通知の読み込み～実際の相談・住居確保給付金受付対応まで一挙に行っていたため、負担が激増していた。また、管内からの応援が来ず、一方で間引き出勤をしている部署などもあり負担のアンバランスさが顕著であった。
- 住居確保給付金では対象にならない方たち、収入の基準が要件を超えているが、（一過性と思われる状況に）日常の支出（車・住宅のローンや家賃の金額）等が急に変えられるわけではなくすべて貸付での対応となる。
- 急に住居確保給付金の受付に特化するような機能変化が求められた。仕組みの変更に苦慮
- プラン作成の要らない・支援もいらない事務処理に忙殺され、個人を尊重した支援や地域連携等生活困窮者支援の理念持っている所ほど苦渋の思いを抱えていた。

社会福祉協議会（貸付）

- 外国人の相談が激増した地域があり英語版の個人向けアンケートを欲しいという所もあった。
- これから来る相談に対応するため、事前に申請書類・周知チラシの準備などをしたが、様式の変更ですべてが無駄になり、事前準備が怖いという意見が聞かれた。
- 生活困窮者支援事業とセットで受託している所は緊急小口→住居確保給付金や貸付などへのつなぎがスムーズであったが、これが分かれていると対応が難しいケースも多かった。

アンケート回答依頼の際に行った各生活困窮者支援現場のヒアリング内容②

生活困窮者相談支援事業・社会福祉協議会（貸付）共通

- 後志・石狩・空知それぞれの地域において、人口規模・観光地域などの地域事情により相談の内容や状況にかなり違いが出ていた。
- 相談件数が常時の4-5倍から150倍・１か月で1年の総相談件数を超える程集中。通常の件数が少ない所は何年分の相談を受け付けたかかわからないと答えたところもあった。
- 人口規模などによる相談人数の差が歴然としており、相談が集中した市などでは相談機能がパンクしていた。
- 支援を必要としないケースがほとんど９割近い。プランも必要としない。
- 電話だけの相談などは正直数字に乗っていない場合もあり、実態は把握できていない
- 給付などの対象にならない方たちに簡単に生活保護をと言われても、相談者のほとんどがついこの間まで普通に生活をしていた人たちであるため抵抗感も強く、支援者側としても対応が難しい。現状の住まいで利用できるコロナ期間限定の生活保護のような制度があればいいとの声も。
- 通知の内容や様式が変わることで、相談で忙殺されている現場の混乱と消耗が激しかった。
- 給付や貸付の対象にならない相談者が激高し怒鳴り込む・暴力行為に及ぶなどの増加により、支援者の精神的負担が増加。
- 支援以外に取り急ぎ渡せる食料などあるとお互いの心理的負担の減少につながるのではないか。
- 6月に入って定額給付金の影響と経済活動の再開により落ち着いて見えてはいるが、第２・第3波への不安や長期的な視点によりどこの事業所も楽観視はしていない。
- 制度の解釈や必要書類に自治体間で違いがあり、給付・貸付共に支援を受けられるケースと受けられないケースがあった。
- 人と会えないため、情報が入らない。連携などが難しく孤立している支援機関もあった。

後方支援プロジェクトを通して見えてきたこと

＜アンケートから見えてきたこと＞

- 相談支援をおこなっている事業所では相談件数が大幅に増加し、相談員の精神的、身体的負担も増加している。
- 事業所では、感染予防のための備品購入や、労務管理（子供のいる職員の休業、在宅ワーク対応、雇用調整助成金の申請など）の負担が増えているが、人的、金銭的サポートは得られていない。マスク等も入手ルートがないだけでなく、予算もない状況がほとんど。
- 2019年度以前に感染症対策を意識している事業所は2割程度だった。実際に感染が起きた場合の対策としてBCPを策定したり、マニュアルについては実施している所も少ない。国や自治体からガイドラインについて示されることが必要と考えられる。

＜ヒアリングから見えてきたこと＞

- 住居確保給付金（困窮）や生活福祉資金貸付（社協）では明らかに人員が足りていない。
- コロナ対応の支援制度の拡充は歓迎されるべきだが、利用者への説明書類などを作成した直後に、要件の変更、様式の変更が急遽行われることが多く現場が対応に苦慮・意欲減退していた。事前通知だけでも何日か前にわかると現場の負担感が減ると思われる。
- 相談支援を必要としない給付や貸付の受付事務が増え、そこに専門職が対応することになり、人材配置の無駄が多く発生した。事務的な処理で済むケースに関しては行政で専門窓口を設けるなどの対策が求められる。
- 自治体間で通知内容の解釈、支援内容の違いが相談者への救済に影響が出ている現状。
  各自治体判断基準の事項などの横のつながりを共有できる場があるとよい。
  また国が10/10を負担するコロナ特例の支援制度であれば、支援格差を軽減できるのではと考えられる。
- 普段からの地域や横の連携が取れている所ほど通常支援への復帰が早かった。取れていない所は情報孤立や頼れない状況に。災害時と同様に日常のネットワーク連携が重要。課題は実際に対面できない状況下でのコミュニケーション。特に行政機関（直営）はセキュリティの問題で輪に入れない